

令和5年度認定

計画名 49 立山博物館を中核とした文化観光拠点計画

①計画目標の達成状況

目標項目名（単位）	R5			R6			R7			R8			R9	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績
立山博物館来館者数（万人）	7.0	6.4	91%	7.5	7.2	96%	8.0			8.5			9.0	
立山博物館外国人来館者数（人）	300	348	116%	400	856	214%	500			750			1,000	
立山博物館来館者の満足度（％）	46.3	47.3	102%	48.3	53.9	112%	50.3			52.3			54.3	
立山博物館及び立山黒部アルペンルートを相互に訪問した者の割合（％）	50.0	27.7	55%	55.0	29.7	54%	60.0			65.0			70.0	

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

（分析）

- ・来館者数は立山黒部アルペンルート観光客の増加や積極的な情報発信（事業4－②、5－①、5－②、5－③、5－④）による効果から、昨年度比で約13%増加と順調に伸びているものの、目標を達成することができなかった。その要因としては、令和6年1月に発生した能登半島地震による影響が考えられる。
- ・外国人来館者数については、立山黒部アルペンルートのインバウンド数の増により増加していると考えられる。
- ・来館者の満足度については、R6年度に導入したデジタル立山曼荼羅（事業2－①）の好評もあり、前年度比で約6%向上した。
- ・立山博物館及び立山黒部アルペンルートを相互に訪問した者の割合については、目標とする水準には届かなかった。その要因としては、能登半島地震による影響が考えられる。

（評価）

- ・来館者数及び外国人来館者数、来館者の満足度については、概ね目標を達成できた。
- ・来館者の満足度は目標を達成したが、R7年度には3階の改修（事業1－①）に取り組み、さらなる向上を目指す。
- ・立山博物館及び立山黒部アルペンルートを相互に訪問した者の割合は、前年度から微増されたものの、目標には届かなかった。R7年度以降においても、引き続き、立山黒部アルペンルートにおいて、観光客に対する立山博物館の情報発信（事業5－②）やホテル・山荘宿泊者向け動画コンテンツ制作（事業5－③）等の事業に取り組み、訴求を強めていく。

③計画で取組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R5	R6	R7	R8	事業類型ごとの実績額
1－①	立山信仰1300年ストーリー理解促進事業	・計画に基づき実施する展示の刷新やコンテンツの導入等の指針となるグランドデザインの導入 ・立山博物館が収蔵する国指定重要文化財の3Dデータ化を実施し、WEBサイトにおいて公開	・R5年度に策定したグランドデザインに基づき、展示館2階各所のコナーパネル、解説パネルの更新・追加、タッチパネルディスプレイによる新たなコンテンツの導入を実施			37.0百万円
1－②	「日本三霊山」魅力発信事業	・立山博物館展示2階に「日本三霊山」展示コーナーを設置	・三霊山に関する特別企画展を開催			
1－③	立山黒部アルペンルート山荘・ホテル等におけるサテライト展示	－	・室堂駅、ホテル立山、弥陀ヶ原ホテル、立山室堂山荘、立山自然保護センターに、立山博物館サテライト展示を設置			
1－④	霊山立山の魅力を体感するツアーの実施及び霊山立山を中心とした観光商品造成促進	・霊山立山の魅力を体感する各種ツアーの実施 ・霊山立山を題材とした旅行商品造成に向けたプロモーションを実施	・霊山立山の魅力を体感する各種ツアーの実施 ・霊山立山を題材とした旅行商品造成に向けたプロモーションを実施			
1－⑤	インバウンド向けツアーの造成	－	・延期			
2－①	高精細「デジタル立山曼荼羅」展示事業	・立山博物館展示2階に高精細「デジタル立山曼荼羅」展示（タッチパネルモニタ）を導入 ・高精細デジタルスキャンした立山曼荼羅の一部をWEBサイトにおいて公開	・立山曼荼羅16点（立山博物館収蔵）の高精細デジタルスキャンを実施			20.9百万円
2－②	「立山地獄」体感空間創出事業	－	・延期			
2－③	立山博物館音声ガイドの制作	－	－			
2－④	インバウンド来館を見据えた立山信仰1300年ストーリー理解促進事業	－	・R6年度の立山信仰1300年理解促進事業（事業番号1－①）による展示館2階の展示刷新に伴う、多言語化（英語）を実施			

2-⑤	山岳集故未来館映像視聴事業	-	-			
2-⑥	立山博物館遙望館上映映像のデジタル化	-	-			
2-⑦	立山博物館敷地内施設・史跡解説強化事業	-	・旧嶋家住宅・善道坊に、各施設の解説を行う案内板を設置。解説文は多言語化（英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語）を実施			
3-①	E-マウンテンバイクを活用した周遊の促進	・レンタル可能なE-マウンテンバイクを配備	・レンタル可能なE-マウンテンバイクを配備			4.8百万円
3-②	立山博物館デジタルガイドマップの導入	-	-			
3-③	屋外施設案内看板の増設等・多言語化を実施	・屋外施設案内看板の増設等・多言語化を実施	・屋外施設案内看板の増設等・多言語化を実施			
4-①	立山の文化・歴史をテーマとしたオリジナル商品の開発・販売	-	・事業者を伴走支援する補助制度を創設			-
4-②	「山の日」に合わせたイベントの開催	・「山の日」にあわせ、その前後の日も含めて立山室堂において飲食・物販等を行イベントを開催	・「山の日」にあわせ、その前後の日も含めて立山室堂において飲食・物販等を行イベントを開催			
5-①	WEBサイト「オンライン立山博物館（仮称）」の構築	・WEBサイト「オンライン立山博物館」を構築し、公開	・WEBサイト「オンライン立山博物館」の多言語化（英語）を実施			12.2百万円
5-②	立山黒部アルペンルート観光客に対する立山博物館の情報発信	-	・立山駅及び室堂駅において、デジタルサイネージを活用した立山博物館のPR動画の放映を実施			
5-③	ホテル・山荘宿泊者向け動画コンテンツ制作	・ホテル・山荘宿泊者向けに動画を制作し、立山博物館公式YouTubeチャンネルにて配信	・ホテル・山荘宿泊者向けに動画を制作し、立山博物館公式YouTubeチャンネルにて配信			
5-④	富山県公式観光サイトを通じた「霊山立山」の魅力発信	・富山県の観光・旅行サイト「VISIT富山県」に霊山立山の魅力を発信する特集記事を掲載 ・富山県公式観光情報サイト「とやま観光ナビ」に霊山立山ゆかりの観光スポットを紹介する体験記を掲載	・富山県の観光・旅行サイト「VISIT富山県」に霊山立山の魅力を発信する特集記事を掲載 ・富山県公式観光情報サイト「とやま観光ナビ」に霊山立山ゆかりの観光スポットを紹介する体験記を掲載			
6-①	山岳集古未来館における無料Wi-Fi環境の整備	-	-			-
各年度ごとの実績額→		27.9百万円	47.0百万円			74.9百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

（分析） ・事業1-①により、計画通りR5年度に展示刷新やコンテンツ導入等の指針となるグランドデザインを定め、R6年度の展示館2階の展示刷新に反映させている。また、2階の展示刷新においては、タッチパネルディスプレイによる新たなコンテンツを導入しており、R5年度に制作した国指定重要文化財の3Dデータを活用した。 ・事業2-①により、R5年度には高精細「デジタル立山曼荼羅」展示（タッチパネルモニター）を導入した。また、R6年度には新たに立山曼荼羅16点の高精細デジタルスキャンを行ったところであり、今後、更なるデジタルアーカイブ化とその活用を進めていく必要がある。 ・事業2-④により、展示館2階の展示刷新（事業1-①）の際、多言語化（英語）を実施したことインバウンドの受け入れ環境整備が進んだ。 ・事業3-③により、R5・6年度に屋外施設案内看板の増設・多言語化を実施した。事業1-①において策定したグランドデザインに基づいて制作し、外国人も含めた来館者にとって分かり易いものとなった。 ・事業5-①により、R5年度にはWEBサイト「オンライン立山博物館」を構築したほか、R6年度には同WEBサイトの多言語化（英語）を実施した。今後、更なる多言語化（中国語（簡体・繁体）、韓国語）も実施し、立山博物館の情報発信の基盤として拡充していく必要がある。 ・事業5-②により、立山駅のデジタルサイネージにて、事業5-③で制作した動画コンテンツを放映し、立山黒部アルペンルートに訪れた観光客に対して同博物館の周知・PRを実施しているところだが、コンテンツや放映箇所の追加など更なる情報発信が必要である。 （評価） ・事業は一部延期したものもあるが、概ね計画どおり実施できている。 ・事業1-①により制作した国指定重要文化財の3Dデータ及び事業2-①により制作した立山曼荼羅の高精細デジタルスキャンデータは、展示館2階の展示刷新やWEBサイトの構築（事業1-①、5-①）において活用しており、今後の文化観光の推進においても活用できる有用なものとなった。 ・事業2-①により導入した「デジタル立山曼荼羅」は、立山曼荼羅に触れているかのような操作感で拡大できる、とアンケート結果からも来館者の満足度が高い。 ・事業2-⑦により制作した案内看板は、旧嶋家住宅が持つ地域色豊かな魅力や、現存する唯一の往時の姿を残す宿坊建築といえる善道坊の魅力や、外国人も含め、来館者に伝えることができるものとなった。 ・事業3-③で制作した案内看板は、広大な面積を持つ立山博物館において、点在する施設や敷地内の史跡への来館者の円滑な誘導、周遊の促進に資するものになった。 ・事業5-①により構築したWEBサイト「オンライン立山博物館」は、当初想定を上回るアクセスがあり、海外から問合せがあるなど、館の知名度向上及び来館者の増加に一定の効果が出ている。 ・事業5-②により実施した立山黒部アルペンルート観光客に対する同館の周知・PRは、現状計画目標である「立山博物館及び立山黒部アルペンルートを相互に訪問した者の割合（％）」の目標値達成には至っていないものの、その割合を増加させており、今後も取り組みを継続していく。

⑤ 拠点施設の要件に関する取組状況

文化観光拠点施設名	高山県立山博物館
要件	
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	・立山博物館が収蔵する国指定重要文化財である「銅造帝釈天立像」、「銅錫杖頭附鉄剣（鈎岳発見）」、「銅錫杖頭（双竜飾）／高山県大日岳発見）」の3Dデータ化を実施し、新たに開設したWEBサイト「オンライン立山博物館」において公開した。 ・収蔵する立山曼荼羅を高精細デジタルスキャンし、その一部を同WEBサイトにおいて公開した。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	・立山の魅力や歴史が凝縮された立山曼荼羅を、種々のバリエーションが見てとれる立山博物館所蔵のものを中心とした30点（R5年度14点、R6年度16点）を高精細スキャンによってデジタル化した。また、R5年度にデジタル化した14点については、タッチパネルモニターによって容易に拡大し、細部まで観察することを可能とし、画面をタッチすることで解説が現れるデジタル立山曼荼羅を制作した。 ・展示館2階の展示刷新においては、効果的に展示内容の理解を促すため、数台のタッチパネルモニターを新たに導入した。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・立山博物館展示館2階のコーナーパネル等の見直しに併せ、多言語化（英語併記）を実施した。 ・立山博物館の敷地内に存する屋外施設案内看板の多言語化（英語併記）を実施した。 ・旧嶋家住宅・善道坊に、解説文の多言語化（英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語）を実施したうえで、両施設を解説する案内看板を設置した。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	・事業を展開するにあたり、関係自治体や地元、観光事業者などと連携を図って実施した。 ・立山博物館で実施する展示の導入やコンテンツ制作等の各種事業において、同館の学芸員及びデザインコンサルタントを実施する事業者が中心となって各事業の事業者と連携し、デザイン・意匠において全体の統一感やつながりができるよう取り組んだ。
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	・来館者へのアンケート調査により、来館者の属性や満足度のデータを収集している。収集したデータは、立山博物館全職員で共有し、展示の磨き上げや博物館の利便性向上など魅力増進の検討材料としている。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	・計画において定めた目標の達成状況を踏まえ、改めて計画の基本的な方向性や取組みを強化すべき事項の確認を行っている。引き続き、これまでの実施結果を検証しながら、文化庁のコーチング支援も活用しつつ、具体的な取り組みに活かしていく。

⑥ 観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
公益社団法人とやま観光推進機構	高山県を代表する観光地である立山において、雄大な自然だけでなく、これまであまり光のあたってこなかった立山の文化的・歴史的価値をテーマにして観光振興を行っていくことは意義があることである。これまでとは異なる層の観光客が訪れることが期待できる。 拠点施設である立山博物館は開館から30年以上が経過しており、選ばれる施設となるよう、引き続き、展示の改修・磨き上げ、わかりやすい解説や多言語化など施設のさらなる魅力向上にしっかりと取り組むことが重要である。

⑦ 今後の改善の方向性

・立山博物館の魅力向上のため、同館の展示刷新や施設の利便性向上を図るとともに、情報発信を強化することで、来館を促していく。 ・インバウンドの来館を見据え、立山博物館の展示やWEBサイトの多言語化、音声ガイドの制作など受け入れ環境の整備に取り組む。 ・引き続き、共同申請者や多様な事業者、立山エリアの関係者との連携を密にして、計画の実現を推進する。 ・より良い取組みとなるよう、文化庁のコーチング支援を活用しながら、専門家からの指導・助言等も踏まえ、各事業を遂行していく。
--